

# 所沢中央病院だより

2023.4 vol.1

私たちは

生命を慈しむ心を大切にし

地域の皆様から信頼される

医療を提供します



## 所沢中央病院の歩み

病院長 北 秀幸

2001年10月医療法人社団和風会 所沢中央病院へ赴任し、スタッフと一緒に救急の基礎を築き2002年10月より院長に就任いたしました。

今までの療養病床40床を一般病床80床にして、地域に根ざした救急病院を目指し、職員一丸となり患者さんの治療に専念してまいりました。

いきなり、一般病棟と救急病棟の立ち上げといっても、一人でできるわけではなく、医師・スタッフの意識改革や協力があって、初めてできることです。

当院が本格的な二次救急を立ち上げた頃、所沢市の二次救急基幹病院が徐々に受け入れが困難となり、当院への救急搬送件数が徐々に増加していきました。

救急車受け入れ台数は、赴任当時の500台から徐々に増加し、年間4000台以上となり、救急車が列をなして待機している状況もありました。

当院では常勤医が当直を行っているため、医師間の連絡がスムーズに行えるという利点もありました。

これも、ひとえに救急と一緒にやろうと協力していただいた職員を中心に所沢中央病院の結集、ひいては和風会の結集のたまものだと、職員に感謝しており、そして誇りに思っています。

医師会、地域の皆様と所沢市のお力をいただき、土地を確保することができ、2016年6月隣接地に新病院を開院いたしました。更に、県医師会及び埼玉県のご協力もあり80床の増床許可をいただいたことにより、2017年8月1日に160床の救急病院が実現しました。

「365日 断らない救急」をスローガンに、今後も地域に根ざした救急病院となるよう努力していきたく思います。





## 急性期病院 所沢中央病院の直面する課題



副院長 苗代 弘

2023年から2024年にかけて所沢中央病院の周辺で起こる急性期病床の変化を紹介します。

埼玉県病院整備計画の最新資料によると、所沢市で急性期病床の増床申請が91床上程されています。埼玉石心会病院も高度急性期病床20床上程。2023年10月には所沢美原総合病院が161床開院予定で、更に60床増床を上程。所沢明生病院の跡地に医療法人社団敬寿会が31床の急性期病床を含む129床の新病院の開設を申請しています。

所沢中央病院は2次救急病院で脳卒中ケアユニット(SCU)を有し、近隣の診療所からの紹介もありますが、救急搬送される患者を受け入れる事で成り立っています。さらに地域の診療所やクリニックなどの医療機関と連携し、地域の医療ニーズに対応することが求められます。

増床予定の2病院は平均在院日数9日です。当院の平均在院日数14日と比較して格段に短い。地域の高度急性期医療の充実とともに、競争の激化は避けられず、さらにサービスの向上に努めなければなりません。

所沢中央病院の強みは、「駅近くアクセスがよい」、「MRI検査機器が最新で対応が早い」、「病院が新しい」、「小規模ではあるが専門性の高い経験豊富な医師がそろっている」、「全職員が常に改善に取り組んでいる」事が上げられると思います。

急性期病院は24時間体制で患者さんを受け入れているため、医療従事者の負担が大きく、精神的なストレスや過労が原因で離職する人もあります。医療従事者の働きやすい環境を整備することが必要です。

具体的には、医療スタッフの勤務時間の見直しや、ワークライフバランスの改善が求められます。医療現場の人手不足により、患者さんに対する適切な医療を提供することができず、医療ミスや医療過誤が起こる可能性もあり常に対策を講じる必要があります。

また急性期病院の機器や設備の経年的老朽化が課題となってきます。高度な医療機器や医療技術を導入するための費用がかかり、経営に不安があると、必要な設備の更新や改善がなかなか進まず、適切な治療を提供することができない場合があり、ひいては患者さんの治療に支障をきたします。

病院経営の重要性を意識することも必要です。高齢化社会に伴い、急性期病院に入院する高齢者が増加していることも課題の一つです。

高齢者は、基礎疾患が多く合併症のリスクが高いため、入院期間が長くなる傾向にあります。これにより、急性期病院は高齢者を中心に患者数が増加し、ベッド不足や看護師の負担増加などの問題が発生します。基礎疾患が多く合併症のリスクが高い高齢者を、全科で診ていく事が極めて重要です。

以上のように多くの課題が存在しています。これらの課題を解決するためには、医療従事者の人材不足を解消するための施策や、設備更新や改善のための予算の確保、高齢者が安心して入院できるような環境整備などが必要です。

所沢中央病院は、患者さんの命を救うために必要不可欠な施設であり、その任務を全うするために前進を続けましょう。

## 患者サポートセンターとは

2022年7月より病床管理、地域連携、医療相談、入退院支援を統括し、患者サポートセンターを開設しました。医師、看護師、MSW、医療事務の12名で構成され、それぞれの専門性を発揮しながら、急性期病院として適切なベッドコントロール、効果的な病床管理を行い、迅速な救急患者さんの受け入れに努めています。

当院は、毎月300名以上の入退院があり、救急車の応需数は年間約4,500台、救急入院率26%、平均在院日数は15日間と煩雑な環境ですが、一般的に急性期病院の入院期間は14日以下とされ、当院も例外ではありません。

短期間の入院で起こり得ることとして、急性期治療が終了すれば退院と考える医療者側と、入院前の状態に回復できた時が退院と考えている患者さん側との間には『治療終了』のとらえ方にズレが生じることが多々あります。退院に納得できず、退院調整期間の長期化から、在院日数の長期化に繋がり、救急患者さんを受け入れる病床の確保ができないといった悪循環が生じます。そのため、退院後も医療や介護が継続することを見込んで、どの時点で退院するかを十分吟味し、それを患者さんやご家族と共有していくプロセスが医療従事者には求められています。

また、急性期医療に特化したサービスの提供が期待され、急性期を脱した患者さんには地域の医療をはじめとした社会資源との連携を強化し、退院により医療サービスが途切れないようにサービスをつないでいくことが当センターの重要な役割の一つです。

入院と同時に急性期病院の特性についての説明を主治医はじめ、センターで関わる専任のスタッフが行い、早期退院を見据えた介入を開始。入院中は、各病棟に1名ずつ配属された専任者が院内外関係者へ多岐に渡り情報交換を行い、切れ目のないサービスの提供に努めています。

当院の入院患者さんで最も多い脳血管疾患の場合は、急性期治療後の専門的リハビリテーションを目的とした転院が多く、迅速かつ適切な時期の転院調整が求められます。そのため、当院では所沢リハビリテーション病院の医療相談室とカンファレンスを毎週開催し、お互いの病床利用状況を把握した退院調整など、双方の病床バランスが図れるように連携を行っています。

今後は、今以上にグループ病院をはじめとした近隣病院との連携を強化し、患者さんに有益となるサービスの提供をしていきます。

患者サポートセンター 師長 安藤加奈子

月平均 一覧	
入院数	323件
退院数	323件
在院日数	15日
病床利用率	95%
救急応受数	404
救急入院率	26%
退院支援介入数	144件
転院調整数	75件

令和4年度 2月現在





## チーム医療 病棟におけるリハビリテーションの実際

所沢中央病院のリハビリテーション科には理学療法（PT）30名、作業療法（OT）12名、言語療法（ST）6名 助手2名、総勢50名のスタッフが在籍しています。

### 【理学療法とは】

運動機能が低下した方に対し、運動機能の維持や改善、座る・立つなどの基本的な動作、歩く・階段をのぼるなどの応用的な動作の獲得を目的とします。また、仕事や競技復帰など、その方のライフスタイルに合わせたリハビリテーションを行います。



### 【作業療法とは】

日常生活活動（食事やトイレ、着替えなど）家事、仕事、趣味、遊びなど人が営む生活行為の全般に対し、その人らしく生活できることを目的とします。その方の障害の程度により、その方が使いやすい工夫された道具（自助具）や福祉機器の提案を行います



### 【言語療法とは】

言語、発声・発音、認知などのコミュニケーションの問題に対する機能改善やコミュニケーション手段の獲得を目的とします。また、水分などをむせてしまう、飲み込みができないなどの接触・嚥下障害に対し、機能改善や食事形態の調整を行います。場合によっては、医師と連携し嚥下内視鏡検査（VE）を行い、嚥下障害の有無を確認しながら、本人にあった方法を選択していきます。



所沢中央病院は急性期病院であり、様々な病気、けがの方が入院されています。その中でリハビリテーションの対象が多い疾患が、脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患です。

脳梗塞などでは、手足の麻痺や、言葉が出にくい、飲みこみができない、などの症状が見られます。当院では状態に応じ、入院当日からの早期リハビリテーションを行い、早期離床・機能改善を目指します。また SCU では特に、医師や看護師、他の職種と連携をとりながら、治療、看護、リハビリテーションが一体となり、患者さんをサポートしています。

骨折などの整形外科疾患、がんや開腹手術などの外科疾患、肺がんなどの呼吸器外科疾患の手術を伴う病気については、周術期リハビリテーションを提供し、術前や術後翌日からの早期離床、早期退院を目指します。

急性期病院はチーム医療が要です。常に患者さんを中心に、医師・看護師・セラピストなどが情報を共有し、連携をとりながら、早期退院、患者さんの QOL を尊重できる医療サービスを提供しています。

スタッフ一人ひとりがおもてなしの心をもって、患者さんに寄り添いながら、きめ細やかなリハビリテーションを提供していくことを目指します。



患者さんの近くで 1 日も早い回復をサポートします



## 「特定技能生」がやってきました！

2月25日 待ちわびたタイからの特定技能生が来日しました。

4名とも、とってもチャームな女の子です。1年間タイの学校で介護と日本語を学びました。コロナの影響もあり、当初の予定よりかなり遅れた来日になってしまいました。

覚えていた日本語も待っている間にちょっと忘れてしまったようですが、一生懸命に頑張っています。

5年間、所沢中央病院で勤務する予定です。皆さん、よろしくお願い致します。



タイ人の本名は長く難しいので、皆ニックネームで呼んでいます。

制服の名前もニックネームです。

皆さん、気軽に声をかけてください。仲間を歓迎しましょう。



フォンさん



ミントさん

ティーさん

アンさん



毎日1時間は、  
みんなで日本語の勉強をします  
今日やった事を紙に書いてから、  
会話の練習が始まります。

### 特定技能生とは

在留資格「特定技能」は、深刻化する人手不足に対応するため、一定の専門性・技能を有する外国人材を受け入れる制度として、2019年4月に施行されました。

所沢中央病院の母体である医療法人社団 和風会では「海外人材紹介」を積極的に行っており、タイ・カンボジアから介護従事者の受け入れをしています。



## 「患者満足度調査」を実施しました！

コロナ下で実施できなかった満足度調査を3年ぶりに実施いたしました。

皆さんからいただいた貴重なご意見を参考に、改善した一部をご報告いたします。

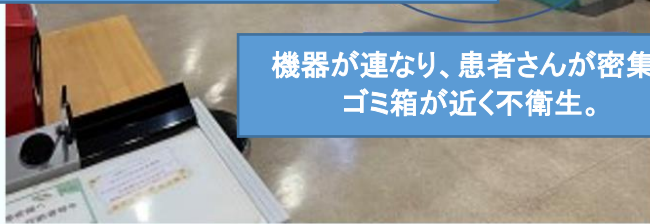
＝待合や受付のスペース不足についてたくさんのご意見がありました。＝

### 本館1F 受付レイアウト変更の様子

#### 取組前



使用頻度の低い設備がロビーを圧迫。  
エスカレーター的位置確認が困難。



機器が連なり、患者さんが密集。  
ゴミ箱が近く不衛生。



再来患者さんと出入り職員  
が交差

使用頻度の高い問診台が  
連なり、入口を圧迫

#### 取組後



問題の解決：解放感のある空間に。  
患者さんの記入スペースを追加。



今後も皆さんからのご意見やご要望に真摯に向き合い、改善に取り組んで参ります。  
どうぞ、よろしくお願いいたします

\* 尚、アンケートの詳細についてはホームページをご覧ください。



## 新型コロナウイルス感染症 2類から 5類への変更について

### 新型コロナウイルス感染症が「5類」感染症に変わると何が変わるのか？

法律に基づいて各都道府県がとる措置が変更されます。

これまでは、発熱の患者さんが医療機関を受診したい場合には、自治体が指定する「発熱外来」を受診することになっていました。

5類移行後は、季節性インフルエンザ同様、患者さん自身がどの医療機関に行くか選べるようになります。当院は、流行初期より発熱外来を設け診察を行ってきました。

今後も、「発熱外来」という枠組みかは未定ですが、感染対策を徹底したうえで、感冒症状のある患者さんの診察を継続いたします。

また、今後は特定の病院だけでなく幅広い病院が入院患者を受け入れられるようになります。

入院先の調整は保健所ではなく医療機関が調整するよう変わっていく見通しです。患者さんの状態を最優先し、より専門的な治療が望ましいと判断された場合は、近隣医療機関と協力していきます。

さらに感染者・濃厚接触者の外出制限、自粛要請は無くなります。ただし、他の感染症と同様、患者さんの重症化や後遺症を防ぎ、周りの人に感染を広げないように、療養することが望ましいと考えられます。職員が感染した場合にも、一定の就業制限を設ける予定です。

マスク着用は3月13日以降、原則として「個人の判断にゆだねる」と決定されました。ただし、感染力の強さと高齢者の死亡リスクの高さ、遷延する後遺症は変わりありません。

このため医療機関への受診や高齢者施設への訪問時など、感染防止対策にマスクが効果的な場面もあると考えます。

当院も職員だけでなく入院・外来患者さん、ご家族の皆さんに感染対策のため引き続きマスクの着用、手指消毒をお願いしていく方針です。

今後の感染症の流行状況や動向、患者さん、ご家族、職員の意見のもと柔軟な対応を検討いたします。



### 編集後記

記念すべき「所沢中央病院だより」第1号を無事、発刊出来ました。

当院を取り巻く現状は更に厳しくなると考えます。所沢中央病院の良さを内外に広め、顧客を増やす努力が必要です。その為に、職員一人ひとりが急性期病院の役割を理解し、チームワークをもってサービス向上に努めましょう。それぞれの部門の頑張り、アピールしたいことがありましたら、情報をお寄せください。お待ちしております。

所沢中央病院だより vol.1

発行 2023.4.

発行者 所沢中央病院

〒359-0037 所沢市くすのき台 3-18-1

Tel:04-2994-1265 Fax:04-2991-4655

